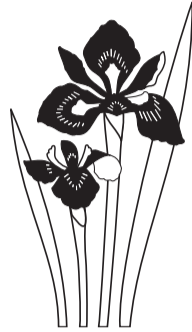


質疑並びに一般質問

代表質問

平成25年第1回定例会は招集日に市長から25年度施政方針が示されました。このため他の定例会とは異なり、施政方針や25年度予算などの総括的な事項について、それぞれの会派を代表する議員による代表質問が行われました。この記事は各議員が作成しています。



将来の柏市のあり方

私たちがなすべきこと

柏清風 山田一一



▼予算編成の重点項目

問 予算編成に当たり、国の経済政策や地方財政対策による影響の見通しとともに、市長の現任期最終年度であることを踏まえて、新年度予算編成の基本的な考え方と重点施策について示してほしい。

答 新年度予算では、柏市行政経営方針の取り組みを推進し、財政規律を確保しながら国の経済政策を活用して地域経済の活性化や事前防災、減災などの喫緊の課題にも対応した。また24年度補正予算は新年度予算と一体的な編成とした。25年度は市長任期の最終年度であり、これまでの集大成として待機児童の解消に向けた子育て環境の充実、小中学校の校舎の耐震補強や橋梁長寿命化事業などの防災、安全対策、学校給食や農産物の放



かしわこそだてハンドブック

市街地再開発事業、住宅のエコ窓設置への補助、都市計画マスタープランの改定などを新年度の重点施策とした。

▼行財政改革

問 持続可能な行財政基盤を確立するため、新年度はどのような取り組みを行うのか。

答 アクシオンプランに位置づけた個別の取り組みを引き続き推進する。事業仕分けは公募による評価者を加えて実施する。また事務事業評価は各部署による自己評価に加え、新たに企画部による内部評価を行う。

▼焼却灰などの放射線対策

問 放射性物質特有の自然減速も相まって、市内全域における空間放射線量は事故当時と比較し、格段に低下してきているものと認識しているが、公共施設や民有地除染の進捗状況とその評価や今後の取り組みは。また、元気な柏をアピールするとは非常に重要なことだと考えるが、具体的にはどのような施策を講じていくのか。

答 各施設の平均的な放射線量は国の基準である毎時0.23マイクロシーベルトを大きく下回っている。民有地は昨年11月から1月までの3カ月で247件の訪問測定を行った。また、まだに残る地域のマイナスイメージを払拭して市民に安心感を与えるとともに、まちの活性化を高めるため元気な柏を全国にアピールする。具体的には手賀沼花火大会の会場を加えた全国有数の花火大会や年末にJR柏駅前周辺の大規模店舗の壁面をスクリーンにしたプロジェクト、シンマッピングなどを実施する。



修正した地域防災計画

▼防災・危機管理

問 地域防災計画の見直しについては、どのようなプロセスを踏み、どのような点を課題として捉え、解決に向けた具体的事業を展開していくのか。1月に行われた総合防災図上訓練で得た教訓や反省点を今後どのように生かしていくのか。特に市職員の対応力強化にどう結びつけていくのか。

答 これまでの防災計画の策定は、行政防災機関を中心に行っていたため市民目線に立った計画ではなかった。今般の計画修正は福祉や市民団体の代表や一般公募市民等の参画による防災計画をつくる会の設置、各団体の実務担当者の意見を反映させるための担当者会議を設けた。また国の中央防災会議や県の防災会議の動向を注視して先進事例の情報収集に努めた。図上訓練で得た教訓は、市職員の危機管理意識の醸成に効果があった。今後は発災直後の職員用ポケットトマニユアルを配付する。

▼高齢者・障害者福祉行政

問 地域包括ケアシステムの実現を目指した第5期柏市高齢者いきいきプラン21が今年度から

実施されているが、現状はどのような状況なのか。またノーマライゼーションかしわプランを昨年作成しているが、プランの中で重要施策として掲げている居住環境の整備、相談支援体制の充実、就労支援の強化などとはどのように推進されているのか。

答 介護保険計画1年目の本年度は当初計画の98%の給付実績である。高齢者施設の整備は可能な限り前倒して整備する。地域包括支援センターは来年度から各センターの人員を1名増員する。障害者支援については、社会福祉法人が設置、経営する重度重複障害者ケアホームが完成する。25年度末には自閉症ケアホームと重症心身障害児・者施設を整備予定である。相談支援体制は、現在市のほかに相談支援事業所が3カ所あるが来年度には1カ所ふやす。就職支援は、本年1月末で35名が就職した。来年度からチャレンジドオフィスカしわを実施予定である。

▼救急医療体制の充実

問 昨年5月に東京慈恵会医科大学附属柏病院が救急救命センターに移行し高度地域医療の核となった。救急医療は民間医療機関にのみ委ねるものでなく行政が体制を整え、財政的にも支援が必要と考えるが、今後の本市の救急医療体制の充実に向けた取り組みは。

答 小児二次救急病院待機事業として、夜間に小児科医の待機が可能な二次病院への体制確保を行う。また脳卒中、心疾患、消化管出血など命に直結する3疾患の二次病院ネットワークの運営体制確保を支援する。

議会だより1面写真展を開催しました!



2月1日~2月7日に柏市役所本庁舎ロビーで過去の1面写真に応募いただいた全作品の展示会を行いました。ごらんいただいた皆様、ありがとうございました。

▼育児保険の実現を

問 超少子化を防備するためにも、社会全体で子供を育てる仕組みをつくる仮称育児保険の早期実現を訴えたい。佐賀県では平成18年からプラン化して国へ提言しているが子ども保険に対する市長の見解は。

答 佐賀県では乳幼児医療費の無料化など子育て支援サービスの実現を実現している。国では子ども・子育て関連3法が昨年8月に公布された。子育て支援は重要な課題であるので佐賀県と国の新たな制度の利点を最大限に生かしながら子育て支援の充実に努める。

▼高柳駅の整備

問 高柳駅西側区画整理事業の現況と今後のスケジュールは。また自由通路と橋上駅舎化の実現性は。

答 区画整理事業の進捗率は、平成25年3月末で74%の見込みである。駅自由通路などは、複線化用地に線路とホームを移転しながら、その上空に自由通路と一体となる橋上駅舎を新築する方法が有効策と考えている。

▼芸術文化の支援

問 芸術文化を絶やさぬよう、市が主体となって取り組む事業や、市民の文化活動支援への具体的な進め方は。

答 柏にゆかりのある早川義孝氏、滝平二郎氏などの郷土作家展を今後も開催する。市民への支援としては、一定規模の団体や周年事業を行う団体の事業費を補助する。



郷土芸術家 滝平二郎展